

■（９５）政治記者は戦国時代の忍者か

東日本大震災の被災地・岩手県の職場を離れてから、６回目の「１１日」が過ぎた。新聞やテレビが震災１年半の特集を組んだ。復興に向けた動きはまだまだ鈍い。極端に言えば、半年前に仲間と作った震災１年の特集記事からの「前進」を探すのも一苦労だ。

震災直後から、与野党の攻防ばかり目に付く政界に、復興よりも政争か、と多くの被災者が憤っていた。「解散」「党首選び」「離党」「新党」をめぐる攻防は今も続く。

その主導権争いから連想するのは、社会科で学ぶ「戦国時代」。だれとだれが手を結んで「天下」をとるのか。そんないくさの世で、敵の秘密情報を探ったのは忍者だった。「素っ破（すっぱ）」とも呼ばれ、報道の世界で「特ダネを書く」の意味の「すっぱ抜く」の語源とも言われる。確かに、情勢を分析するため情報を集める仕事は記者と似ている。ならば、政治の登場人物を戦国武将に重ねてみれば、政治記事により関心が深まるかもしれない。

学生のころ、日本史の勉強で苦痛だったのは歴代の将軍や首相の名前の暗記だった。これだけ頻繁に首相が代わると、今の子どもらは大変だろう。余計な心配かもしれないが。（山）